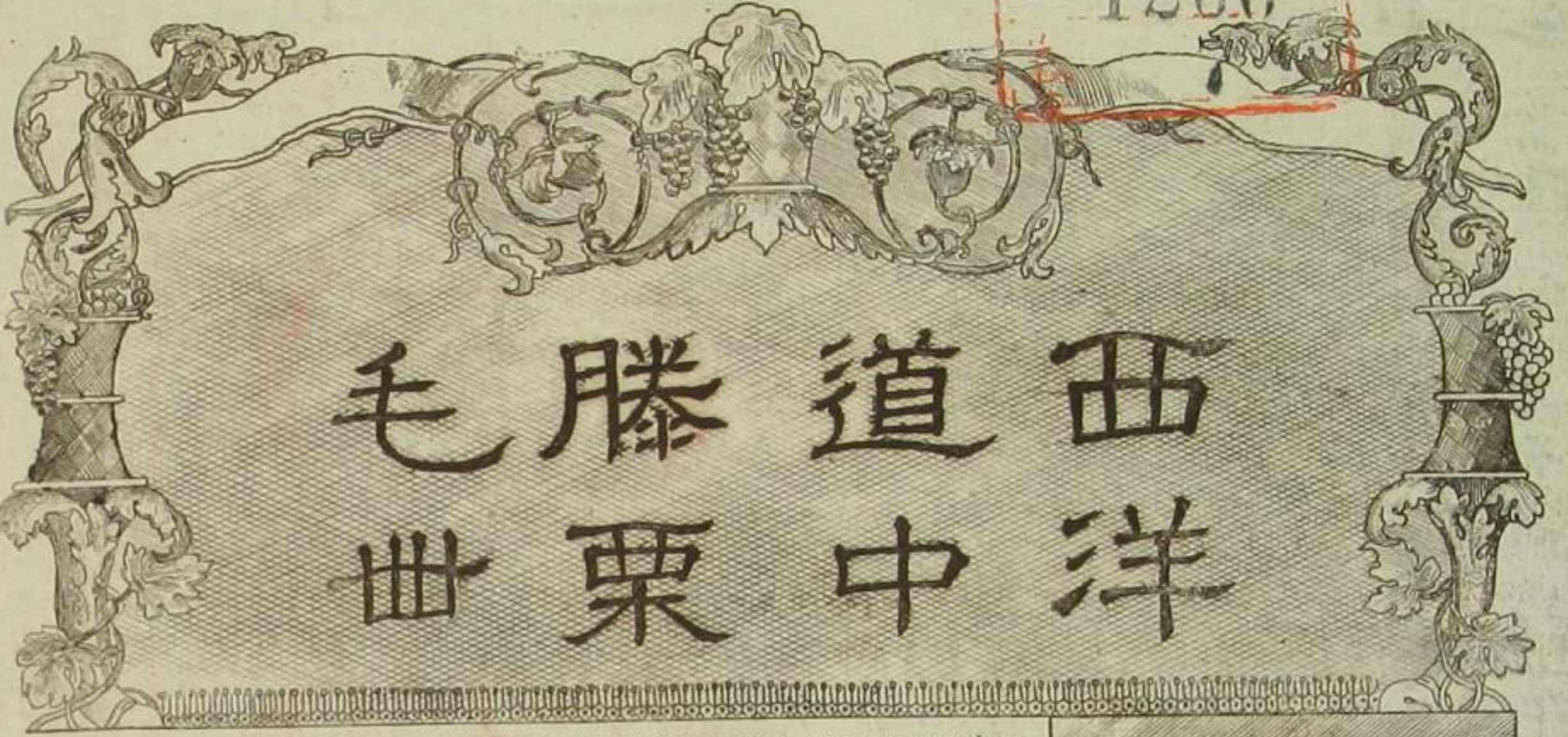


西洋道中膝栗毛

四編  
上



# 西洋道中 毛栗世



作者

假名垣魯文戲著

書肆

江島萬茂閣壽棟



西洋道中 毛栗世 第四輯序

義兄弟 假名垣魯文子。平常は遊里を好む。夕は

吉原の月小唄。且は嶋原の花は戯れ。春は初

買の二日を待たむ。去年と今歳の後朝を見歸り

出口の柳を慕ひ。秋は燈籠の初宵を待ち。茶屋

提灯の軒端に釣る。晦日の月と愛するより。彼

常闇の囀の中。娼妓でるけりや。夜が明ぬ。東海

西洋道中

姫氏國倭魂さるかゝん。魂膽の穴を穿ちゆく。娼妓  
 評判記よ。八文字屋童忠の別號黒塗の駒下  
 履と共ふ高く。花街新聞紙よ。文明舎化笑の  
 變名時刻の拍子木と等しく聞えり。其北碓  
 の道中と。文明開化の西洋風よ。翻譯しる當時  
 新聞渠の苦界の八文舎。是れ世界の五大  
 洲飛脚船の新造出し。戀の港を突出の同じ

流れの廓詞ヲマスカンシの傾語箋。流連愉快  
 の漢語通ちよんきるホイの人力車を、蒸氣と馬  
 車の膝栗毛小。乗替丁場の西洋道中筆の輕  
 尻一鞭馳々。評判千里萬國航海萬笈閣の  
 藏入も。仕合吉と虻取よ。染し文字も假名がね  
 の便りり。答ふ序の

嗚呼我れもつとまがトトト

辛未春睦月二日試筆

花街仲の町のテイハウス中尾樓上  
餘地遊屋は清攬の調を奏る且

風柳子羨洒雄漫題



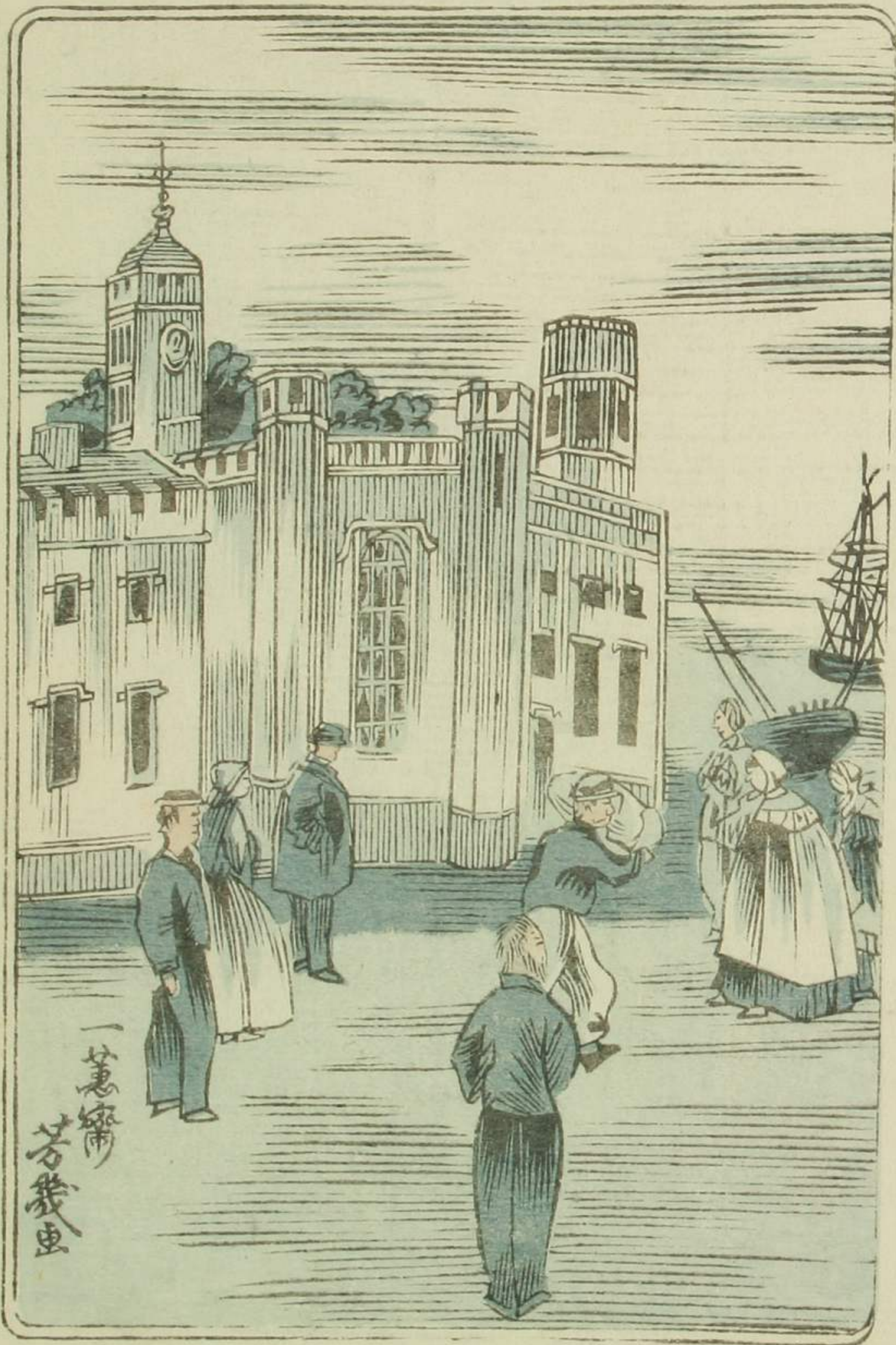
春農塾仁勇女留駒波曙  
迺若紫遠手綱登茂見天  
泉樓娼妓若緑詠



印度人象に乗るを見る

弥次

北八

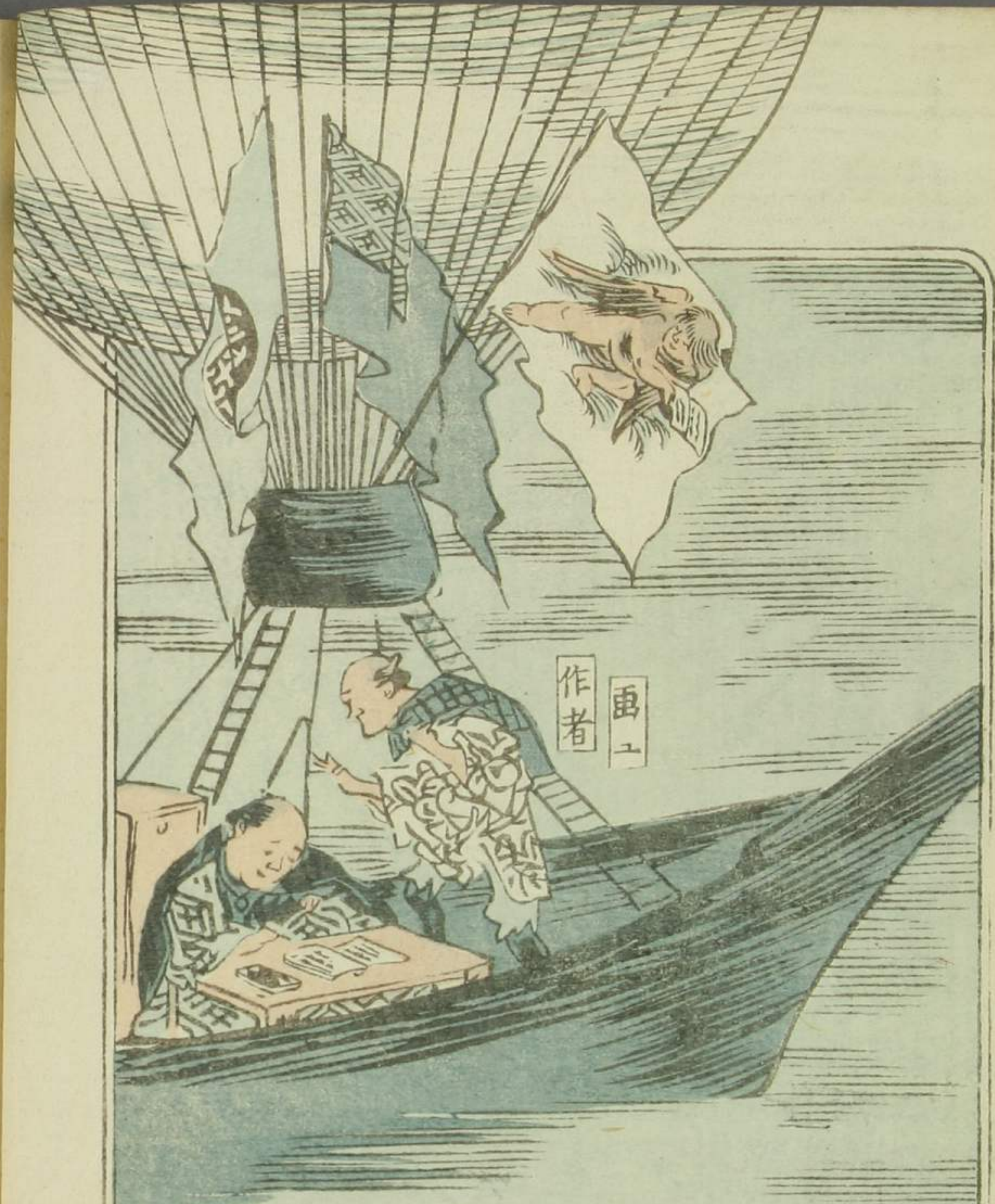


一  
葉  
繁  
芳  
發  
魚

新嘉坡府



新嘉坡府



作者 画工

雲の峯  
おれて  
風を  
浅く  
魯文

西洋道中膝栗毛

總編本文讀例

○當編初輯より以下梓客流行の後きんことを  
を怖れし作者画工傭書家剗刷氏を促し  
ことと火急あり故に著述の拙き云も更  
傭書彫刻も是に順せりかれば誤字闕字訂  
改とせしるに餘間あらずに製本幾兌の後作者  
其杜撰に驚けども六日の菖蒲十日の菊悔め

ども前まへ不立たがを不如たが元來もとより幼童こどもの翫物あそびものふしし  
 具眼くがんは布ぬいべき書かきあつねば其儘そのまはして唯ただは止やまら  
 ○初輯しゅあつより以下いげふ不校合たがひあはあるを遺憾のちがひとまゐる條きりを  
 彫工てんこうの爲ためは傍訓たがひを謬あやましたるのこゝ下くだいたと  
 ば私わたくしとりける傍訓たがひは「いらぬ」我等われらを「いらぬ」會あひ  
 所ところを「いらぬ」一杯いちぱいを「いらぬ」此奴こいつを「いらぬ」あど  
 けし類るいひの方かた言ことひ支那しなの小説せつは所謂すゐ俗語ぞくご  
 ば等ひとしく東京とうきやうの下賤げせんが癖くせを穿ふつ戲作者げさくしやの

関目かんめいあるを刻きり去さりたる行なりて困こ之の作さ  
 者の意いは違ちがふ緯いと少すくうと見功者けんこうしやの推おも  
 べしと罷程ばいぢやうにしし再校さいがうの眼めを休やすめり  
 ○英語佛語えいごぶつごの片假名かたがなを以もつてあはし長言ながことばのその  
 下條したじやうは二行ふたぎやうの假名なを添そへて云いふと譯やくをわどに  
 短言たんごんの其左そのひだりは真字まじを以もつて解とせり  
 ○作者さくしや此小冊こせきの注文ちゆうもんを諾うなひし彼我かがの問谷もんや  
 及ぶ條およぶじやうを終はらんともいふ蠻語ばんごは通とせむ緯いとの

西洋旅案内を柱とし趣向の友人砂燕子が航  
海の日記を礎とせり遮莫俗云云の如き話  
説よあゝとて實地を渡らぬ聴取傍聞萬國の  
萬一箇も的當くとい有べし以看官僥倖を  
海容めくし

○假名づゝの彫工の勞をいとひて「ちやほほ」と  
「きやほほ」とを「ちやほほ」とも「きやほほ」とも呼ぶ  
に似ざんと是の裨官者流の平常と為所なるん

西洋道中膝栗毛四編上

東京 假名垣魯文戲著

海國を往來を披きし風船の世に有るを知る  
海邦新法を圖しし蒸氣船の形をあらわすも  
近頃洋學一対小窓の地球の細圖は各國有名の  
地は標初を量蒙もよく暗記標演の開港以來西  
客對活の英佛西語を後る船人撰録を以時を  
きらひぬ印度海を平海の飛御船出のけしき



交際の高波仲るふ打はしてて敷由船心は折万里  
 波浜は岸と北八の大後屋廣義の一難ともは  
 セイゴンより西日無難の船海を陸くシンガポウ  
 の地へ上陸せりけ地は即交り海の傍はし英  
 利銀あり赤道より水の旁二交の所又ありて  
 暑く四季の暑別はしりも夏の通るあり  
 日本ノの寒中ありもけ地は胡瓜カウ茄子ナス西瓜スイカの類  
 活山ありけ余の菓實クワシ何れもよらむ生じ候も

玉タマツく安しとぞ又けあふ虎トラ声くおと人ヒトを  
 害ガイまとりり船フネと六知シくも跡は岸ハささしく  
 異境イキョウの獨ひとり手もとりりことどもりり通ツむるるを  
 通ツれば今イマの通は岸も異ちがてまどいと性味セイミの生なま  
 又また茶チャしてふ不ふ実じつ物ぶつはむももそ月ツキと猪ブタを  
 立たちゆくけ知被知しりぞと名なあるに意い思しくいふ名なを  
 茶屋チャヤともおぼしきかりの家造ウケり小精せう精せい様さまとの  
 余あの目別めぬ目めありめづしき有あり歎なげを興きまりける

庭に青く門口の椅子小腰をうけたるハ番の上の  
招きとる人面色悪き異形の人が鞭めて鼻をこ  
ちびきながらヤツ日本人パンニン猿エー猫フケツトハルロツト。ビジオ  
ン賣トウセルズペンド。リツトルモニーとらふ養育

○は地會社の種類多し因り花御船の津  
まれば白人等鴉鴉多しを養物と持来る  
る者あり又靛を染しその家多しと養物  
まるといふ

北 弥次さん名後入港の岩田町う赤糸の養おと  
り小橋と志きりと志やべつてあるが何のこととて  
からさるるりヨウら移入のヲ洋ソウヨあれども金橋  
がある銀むとがある金橋あるからのあじとり 孔  
養をどらりじくか帯をあつれとせむらみるじり  
北ヲヤ一寸名ねべらむらに若つ年の出さるるが  
あるゼトント美赤る尾へ半房をやらしくおつつけ  
こやう洋アレとやあむが何のまひせしとて



西洋果毛口上



西洋果毛口上  
 上

九

あれもちのい〜ささく〜ささくらねらら大とらひ  
 タカらんホヨセし〜けふの毛葉トバが英吉利イギリスのやうぶ  
 かつらカから黒クロの坊ヤウさうりサぜシ〜の印度インドの月  
 だらけあついと〜美夏メカのやうぶそれ〜け  
 風カゼと生れナぬメあらん坊ヤウのうらら日ヒあけてまろ  
 黒クロの坊ヤウとヨカ黒クロいのねニねヒけ世界セカイのどろ〜ら  
 ナントカ船フネ船フネと〜のうと酒サケ落レが黒クロツツ〜くカ〜  
 誅シからアあつ〜てあわれもあねけあつ〜るカよカ

あちやアミイラとらぐミイラああるやうおもニ〜  
 志シあ人のやア思シンシたろふある〜らうカの国クニでカひ  
 つまらツマるラ葉ハがガありやヤをオまマぐ細長ホソナガイイ靴カブをオ玉タマ盤バンで  
 強ツヨクつあ〜カ把ヒの葉ハをオ奏ソウじシ〜カコツツププ〜のカ〜  
 ヨシツツトト〜ガカラスス丸マル西洋セイヤウ湯ユ〜カアア〜  
 つらあてられ〜カ〜  
 日本ニッポン人ニあア〜カ〜  
 今イマ吐ハ分ン西セ丸マルがガとトんンあアよヨ大ダイきキ〜

生まうくみやうとふきまがつつぬくせナント咽のどが乾かわイく  
 あらぬぐあれを一ツせめらほしとくそとらえ  
 いつくやらほしの響うらをす入やうううノ誂そのつの妙ちゆうが  
 だれうるちやアおぬくう志らん北のいのまひあつふ  
 人もほしけるよちやく誂かんをれくトあつをきうう  
て後まもあけいがハをえをうあつけて誂の席ハをいけふあいんん  
あつまびくのすのこを二つちきうてあらしきあかしつん 誂ん  
まと志あびよくらまひやううるけあいん人めあかららぶ  
 一大る体そう志やく一わらいそげトあつをきあつをきうう  
モウのぢぢうぶとあ人ハたちとまりヲツトとらの  
樹のもがお小体とふらう場あらんどう細る  
ひじくかうとか地おつつぬく誂あんどときのよう  
男ご九十九里でらじをぬきむとおるじとつく  
あんあおたんと生つくあい西風ぶのヲ一ツや  
二つ燈のをえらしめんどうある奴があるのん  
うばしをきめやアうらうとうらうが日本人の大の服  
と一トあらみあらうやア行まをでんらけしく

のそのあいふをえらうけて二三丁あらまられバ北  
モウのぢぢうぶとあ人ハたちとまりヲツトとらの  
樹のもがお小体とふらう場あらんどう細る  
ひじくかうとか地おつつぬく誂あんどときのよう  
男ご九十九里でらじをぬきむとおるじとつく  
あんあおたんと生つくあい西風ぶのヲ一ツや  
二つ燈のをえらしめんどうある奴があるのん  
うばしをきめやアうらうとうらうが日本人の大の服  
と一トあらみあらうやア行まをでんらけしく









こころ <sup>北</sup>「ヲヤ」〜 目がくれかづてきたる人  
 の <sup>北</sup>「し」ら物の中よ夜ある夜一夜あると  
 あんの因果のより命 <sup>北</sup>「そ」ヨのうそれる  
 系 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「た」も <sup>北</sup>「ね」が <sup>北</sup>「や」を <sup>北</sup>「ま」や <sup>北</sup>「ま」や  
 も <sup>北</sup>「あ」る <sup>北</sup>「あ」ん <sup>北</sup>「ぞ」と <sup>北</sup>「の」い <sup>北</sup>「親」の <sup>北</sup>「ら」ん <sup>北</sup>「が」る <sup>北</sup>「あ」む  
 った <sup>北</sup>「の」ら <sup>北</sup>「う」を <sup>北</sup>「あ」の <sup>北</sup>「い」が <sup>北</sup>「親」た <sup>北</sup>「ら」が <sup>北</sup>「ら」あ <sup>北</sup>「ら」あ  
 北 <sup>北</sup>「と」ら <sup>北</sup>「ける」が <sup>北</sup>「親」者 <sup>北</sup>「も」あ <sup>北</sup>「ら」く <sup>北</sup>「唯」の <sup>北</sup>「と」び <sup>北</sup>「よ」よ  
 北 <sup>北</sup>「と」ら <sup>北</sup>「ら」く <sup>北</sup>「唯」の <sup>北</sup>「と」び <sup>北</sup>「よ」よ  
 北 <sup>北</sup>「と」ら <sup>北</sup>「ら」く <sup>北</sup>「唯」の <sup>北</sup>「と」び <sup>北</sup>「よ」よ

ぞも <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八  
 北 <sup>北</sup>「あ」ら <sup>北</sup>「る」あ <sup>北</sup>「る」を <sup>北</sup>「唯」切 <sup>北</sup>「つ」く <sup>北</sup>「目」ま <sup>北</sup>「ん」て <sup>北</sup>「ん」 <sup>北</sup>「北」八

西洋書目

十五





大  
 西  
 虎  
 ぐ  
 ぐ  
 ぐ





ちから目をまじしみのヨ通北北さんあめんくよく目を  
 ままじんじんのうと海うみうらまろりまろろくふどめ二反目と  
 りのひらうアハハあじまらさあつじりりのきま  
 けまどモテルさんぐおよく来きあらせし強ちやう合あく  
 あらもまれのひらうこれく目をまじししうめく  
 さふでまそおらアノウ通通さん通そうとひくエモシ  
 ねがねが大津おほつ海うみのふ辰いげん目を地ちくりやよ北北あろろろ

ろくるとちやアあるめん通イヤサまアあるま  
 あらあめくまごホンノあなでまごいけまどカウダク  
 ママイイーー 弥次やじ席せきどんどんけけああららままろろて  
 くれ弥次やじ席せきまおまお控くわうししエエくくたたぐぐのの切きりりせん  
 ぬまめぬまめのの志し色しきままるるむむくくののけけううめめかかままめめく  
 おげおげまませせううヤヤレレくくふふ突ぶるる弥次やじ席せきめめととううけ  
 りり物もののの木きのの根ねふふひひとところころびび異い人じんととままら  
 しのしのままちちづづももららててああししづづいいととデーデーイイくく

林<sup>ハ</sup>ア<sup>ン</sup>〜<sup>ン</sup>ミ<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup>大<sup>ニ</sup>ぶ<sup>ニ</sup>ぶ<sup>ニ</sup>き<sup>の</sup>勢<sup>カ</sup>調<sup>キ</sup>を<sup>シ</sup>己<sup>ノ</sup>も<sup>一</sup>首<sup>ト</sup>に<sup>シ</sup>つ<sup>け</sup>ひ<sup>べ</sup>い  
 身<sup>ミ</sup>の<sup>シ</sup>料<sup>リョウ</sup>と<sup>あ</sup>り<sup>し</sup>る<sup>の</sup>ゆ<sup>ゑ</sup>に<sup>し</sup>ら<sup>べ</sup>に<sup>し</sup>て  
 繩<sup>ヒ</sup>ふ<sup>つ</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>周<sup>シユ</sup>果<sup>ク</sup>て<sup>ま</sup>り<sup>ん</sup>  
 虎<sup>コ</sup>と<sup>え</sup>ら<sup>る</sup>あ<sup>ら</sup>わ<sup>る</sup>ち<sup>ま</sup>ち<sup>ら</sup>ら<sup>る</sup>び<sup>ん</sup>  
 弥<sup>ヤ</sup>次<sup>ジ</sup>よ<sup>り</sup>ち<sup>や</sup>く<sup>む</sup>い<sup>き</sup>ハ  
 形<sup>カク</sup>極<sup>キョク</sup>ま<sup>さ</sup>ら<sup>し</sup>ま<sup>る</sup>人<sup>ノ</sup>通<sup>ツウ</sup>次<sup>ジ</sup>廓<sup>クワク</sup>異<sup>イ</sup>人<sup>ノ</sup>考<sup>カウ</sup>と<sup>う</sup>ち<sup>連</sup>  
 ち<sup>ら</sup>て<sup>ど</sup>ゆ<sup>り</sup>け<sup>る</sup>

西洋道中膝栗毛四編上 了

